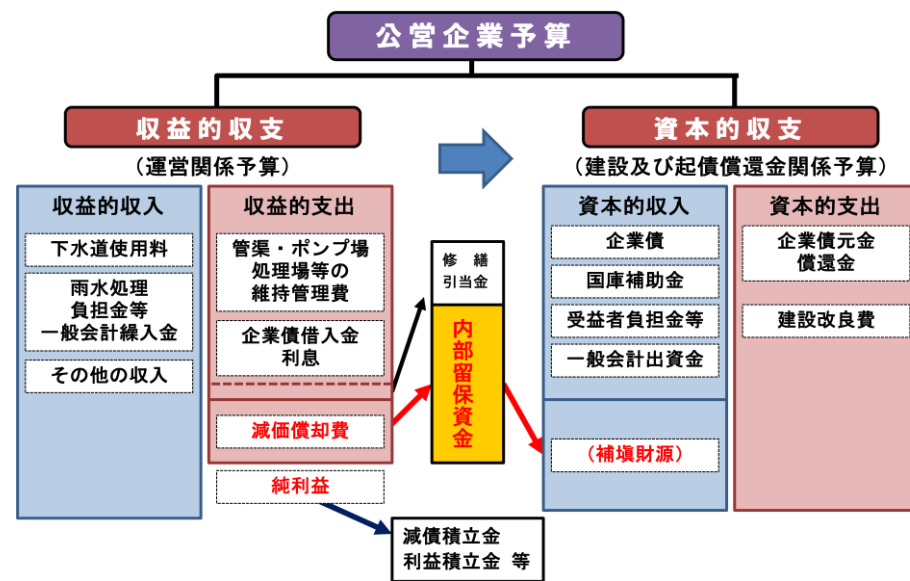
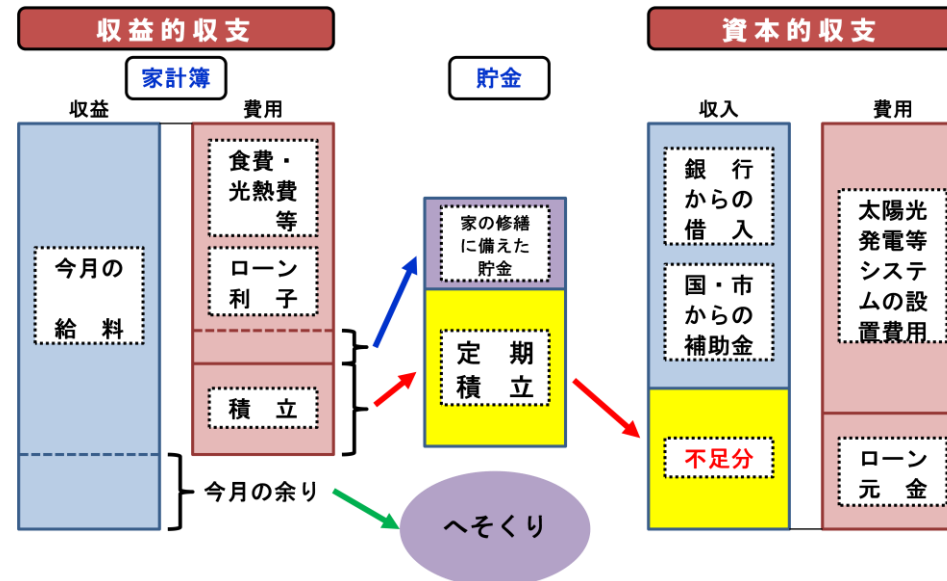


## 1 収益的収支と資本的収支の概念



## 2 家計に例えてみると・・・



## 3 利益の状況

(単位：千円)

	H20	H21	H22	H23	H24
当年度純利益 (当年度純損失)	△2,190	△16,059	31,665	47,490	11,700
(参考・前回改定時推計)	(△33,345)	(△22,988)	(△13,784)	(△5,898)	(△10,166)
当年度末累計額	△2,190	△18,249	13,416	60,906	72,606
(参考・前回改定時推計)	(△33,345)	(△58,333)	(△70,117)	(△76,015)	(△86,181)

※前回改定時推計額との差額の要因

	H20	H21	H22	H23	H24
使用料改定【H21.10.1】 (平均3.9%)	-	9,407	21,954	21,901	21,724
札幌市維持管理費負担金	24,968	16,837	55,153	60,068	45,200
その他	6,187	△19,315	△31,658	△28,581	△45,058
計	31,155	6,929	45,449	53,388	21,866

**利益の処分**  
・使用料に転嫁(値下げ)  
・将来の負担に備え積立

## 5 利益の処分

- 利益の処分**
- 1 減価積立金・・・企業債の償還に充てる目的
  - 2 利益積立金・・・欠損金をうめる目的
  - 3 建設改良積立金・・・建設改良工事に充てる目的
  - 4 未処分・・・翌年度以降に処分する、または、欠損金に充てる目的

### ○利益処分のポイント

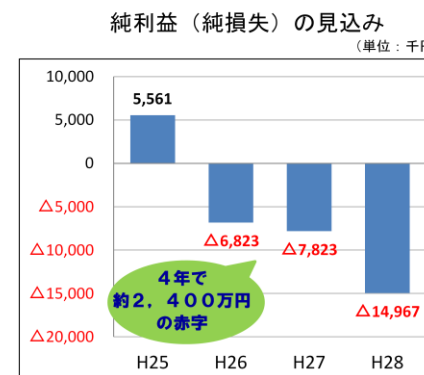
- ・利益積立金は、収益的収支における欠損金にしか補填できない。
- ・未処分利益剰余金は、減価積立金及び建設改良積立金に積み立てない限り、資本的収支不足額に補填することはできない。

※今後、企業債償還金が増加することから、資本的収支不足額に、利益剰余金の1/2を減価積立金に積み立てる。  
また、残りの1/2は、欠損金が生じた際の補填財源とする。(単位：千円)

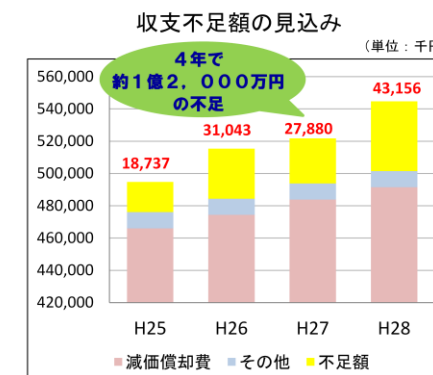
	H20	H21	H22	H23	H24
当年度純利益 (当年度純損失)	△2,190	△16,059	31,665	47,490	11,700
当年度未処分利益剰余金 (当年度未処理欠損金)	△2,190	△18,249	13,416	60,906	42,606
利益剰余金処分額 (減価積立金)	-	-	0	30,000	21,000

## 4 利益処分の市の方針

### 収益的収支

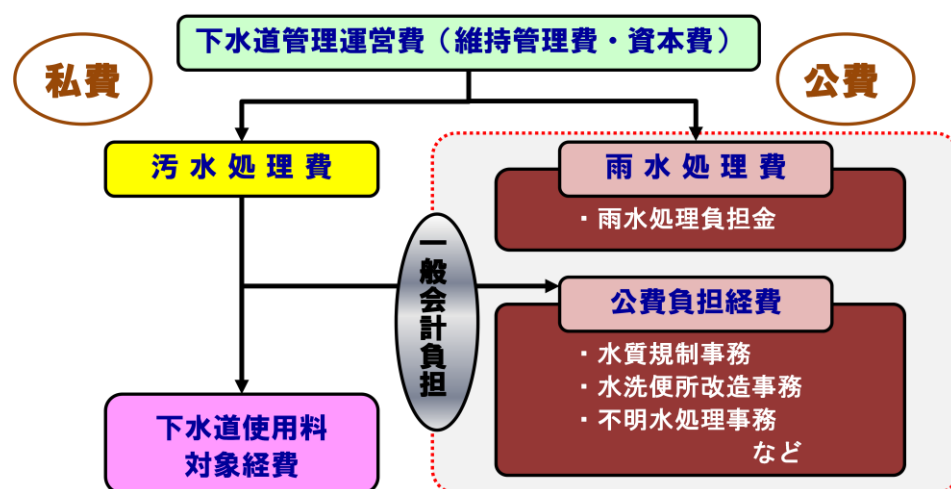


### 資本的収支



将来の負担に備え積立

## 6 下水道管理運営費の負担区分



## 7 下水道運営管理費の枠組み(H25～H28)

	支出	収入
汚水処理費	2,297百万円	下水道使用料 2,207百万円
雨水処理費等	1,982百万円	一般会計繰入金(汚水分) 90百万円
	維持管理費 1,293百万円 資本費 914百万円 維持管理費 90百万円	一般会計繰入金 1,982百万円
	使用料対象経費 2,207百万円 使用料控除経費 90百万円	うち雨水処理分 1,979百万円 うちその他公費負担分 3百万円

## 8 使用料の改定

(税抜き、単位：千円)

区分	年度	H25	H26	H27	H28	着色部計
使用料収入		555,191	553,470	551,754	549,050	2,209,465
使用料対象経費		543,656	553,957	552,862	556,907	(2,207,382)
過不足額		11,535	△487	△1,108	△7,857	2,083

・平均改定率 = (H25～H28の過不足額) / (H25～H28の使用料収入)  
= 2,083千円 / 2,209,465千円 = 0.09% (値下げ可能)

使用水量20m<sup>3</sup>の場合：約2円

値下げ可能額が低いため、使用料は据え置き